

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム 羽音

(ユニット名) 音ユニット

記入者(管理者)
氏名 草野 和子

評価完了日 2007年 6月 1日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛と奉仕の実現」という理念を掲げている。入居者を「ホームの中に閉じ込めない。来訪者をどンドン受け入れる」ことを心がけている。(学校関係、ボランティア、実習生など)	○	地域の独居老人が茶飲み友達として訪れるホームになりたい。回覧板を利用して呼びかけようと考えている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「愛と奉仕の実現」という理念を日々の中では、「つねに笑顔で接する」という事と「ダメと言わない介護」という事で実践に努めている。又、スタッフ自らが考えた目標を掲示している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を回覧板の形にして地域に配り、ホームへの理解を深めようとしている。家族に対しても同じ内容を送付している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に属し、地域の奉仕活動に積極的に参加したり、挨拶をかわしたりしている。花火大会などを企画し、近隣の方にも参加してもらっている。	○	近隣への散歩などを多くし、顔を憶えてもらったり挨拶をかわす付き合いを深めたい。老人会との付き合いを企画する。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に属し、地域の奉仕活動や行事に参加する努力をしている。(年2回の地域清掃、学校行事、お祭りなど)地域のボランティアが、踊りや演奏会を開いている。	○	夏に花火の集いを開き、回覧板を通じてお知らせし、近隣の子供達にも参加してもらった。年間を通じて、ホーム主催のイベントを考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で模索中。	○	「子供110番の家」を掲げたり、災害時の緊急避難場所になっていければと思う。地域の独居老人に集う場を提供したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設という存在が井の中の蛙になりやすいものである事を理解し、評価を受けた内容を、良い点も悪い点もスタッフ間で共通理解できるよう話し合い、改善に努めている。	○	改善の指摘を受けた項目について、スタッフ1人1人がどのような改善案を考える事ができるかレベルUPの意味も含めて、各々に問いかけて行きたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	まだ開催回数が少なく、意見をサービスに反映するところまでは行っていない。運営推進会議の議事録を回覧板で地域に報告している。	○	地域により理解してもらう中で、もっと踏み込んだ意見交換ができるようになりたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での行政との行き来はまだない。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する研修会に参加し、理解に勤めているが、現在、入居者に該当者はおらず活用はしていない。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	制度に関連する研修会に参加してスタッフへ伝えている。ホーム内で虐待が起こらないようスタッフ同士注意し合っている。(特に言葉の部分で)	○	資料等をスタッフに配布し、共通認識を持たせる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	管理者が説明にあたり、時間をかけて理解と納得を図っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	午前中のレクリエーションで全員が集合する際に、会議の形で意見を出してもらう。(節水についての意見交換など) 第三者行政者の受け入れを承諾している。	○ 第三者行政者の受け入れを承諾している。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月、請求書を送付する際に、ホーム便りを利用者各々について作成して同封している。その他必要事項についても折々に手紙を作成して送付している。(面会時にも)	○ 日々の生活の中でも体調の変化や自己などについて、その都度報告している。職員の異動などについても今後は報告していこうと思う。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を設置したり、面会時に家族と話し合う努力をしている。病院受診に関して家族からの要望があり、最大限の協力をしている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	参加者が限られるミーティングの形を廃止し、細かくアンケートを配布して1人1人の意見や提案を汲み取り、統一見解を出すようにしている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	状況に合せ、超勤などで対応し、必要人員の確保に努めている。重篤な状況では管理者が常在する様になっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しいスタッフに馴染みやすい様、約1ヶ月は先輩スタッフとペアにて指導し、個々の対応を統一して入居者の安心を得ている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は先輩スタッフとペアにしての指導。プリント学習などでレベルUPを図る。管理者が現場にて細かい面の見直し指導をしている。	○	運営面、実務面、何でも問題提起があれば全員にアンケートを配り、1人1人の意見を汲み取り、1人1人が考える習慣付けをしている。今後も細部に渡って実行したい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流は多いが、スタッフ間の交流はあまり持っていない。個々に研修に参加しているのみ。	○	新人スタッフの指導が一段落したら、他施設への実習（月に3～4日、1人ずつ）を企画している。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	残業など無理強いしないよう、シフトの業務内容の見直しを常に行なっている。管理者は時間のあふり現場に居て、スタッフの精神面と、業務面のフォローをしている。	○	定期的な時間外ミーティングを廃止したので、年に何回か慰労会を開いてやりたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務1つ1つの見直しの際にも、全員にアンケートを配り個々の意見を出せる場としている。自分の意見を出せる事から向上心に結びつけようとしている。介護の学習ができるよう書籍やテープを購入し、自由貸し出しのコーナーを設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事を協働し、常に感謝の言葉をかけるようにしている。入浴や買物外出など本人の希望を確認しながら強制にならないよう本人の意思を尊重している。ホーム全体が一つの家族と考え共に支えあって生活している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の面会の折にも、挨拶のみで終わらないよう話し合う機会を多く持っている。行事への参加も呼びかけ、皆ですごせる機会や時間を持てる努力をしている。	○	現在、センター方式で生活暦のアセスメントに協力をもらっているが、より内容を深くする為、折々に親の生活暦を会話の中で聞き取っている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式の生活暦から、親子関係の把握に努め、絆が切れないよう家族と連絡を取り合ったり、外出や外泊、面会などを状況を見ながら勧めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が来訪しやすいよう、又、一緒に出かけたりしやすいよう支援している。手紙や電話のやりとりを助言したり、手伝ったりする。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しやすい利用者に対しては、スタッフが1対1で関わるなど努めている。利用者間のトラブル発生時には、各々を傷つけないようスタッフが1対1で関わるようにしている。テーブルの席順や、入浴順などにも利用者同士の相性を考慮している。具合の悪い方を心配してくれたり、手伝ったりの関係作りが出来ている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡退居後も、はがきを出したりしている。退居後も家族がボランティアとして関わったり不要物品を寄付してくれたりのおつき合いがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から垣間見える本人の気持ちを記録に残し、スタッフ間で共有できるようにしたり、1対1の関わりの中から意向を引き出すよう努めている。	○ 本人の思いを逆に家族に伝え、協力を仰ぐ方向も考えなければ全てスタッフで対応はできない。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から協力を得たセンター方式の記述を基に、日常の会話の中で本人の歴史を聞きだしたりテーマにして活かすよう努めている。	○ スタッフ1人1人が関わりの中から把握できる能力を持てるよう今後も指導が必要と考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務シフトの中で、スタッフ間の申し送りや今日の様子などを細かく伝えるようにしている。スタッフは個々の生活パターンや各々の能力を大体把握しており、共有している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者から毎月モニタリング提出し、いろいろなアイデアを生かしている。個々の変更については、面会時や電話にて家族に報告するよう努めている。現場カンファレンスを行ない、家族の希望を聞き取りしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングにて、細部の変更はその都度行なっている。又、面会時や電話にて家族に報告している。対応の変更事項は申し送りにてスタッフに伝える。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話内容や変化をポイントにした記録を指導している。毎月のモニタリングで1ヶ月の様子を、記録を通して把握し、情報としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との協働までは行なえていない。地域のボランティアの受け入れレベルまで。	○	秋の避難訓練は地域と消防の参加を企画している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス活用はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して、地域包括支援センターと話し合える関係づくりが出来てきた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望により主治医を決定し、緊急時の医療連携をとっている。主治医に面談し、御本人の病気について、日常の変化や注意点など留意事項を確認している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各々の主治医との連携を深める中で、指導を受けつつ、情報提供をしている。		
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は、2～3日に1回の割合で様子を見に行き、不足物を補充したり、身の回りの整理をしたり、NSから状態について情報をもらったりしている。家族とも連絡を取り合い、退院が早期にスムーズに行なえるよう努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要と思われる時期に、主治医、家族と話し合いを持っている。ターミナルに向けての家族の考えや、ホームで出来る範囲についても度々説明を行ない同意を得るようにしている。話し合いの状況や方向性についてスタッフに伝え共有する。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	すでに看取りの体験をしており、ターミナルに向けて主治医との連携、家族との話し合いなどチームとして同じ方針を共有する方向性で行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームにおける住み替えは、病院への入院が主である。入院中も度々、スタッフが顔を出し、家族とも連絡を取りあって、ダメージへの軽減に努めている。利用者の為になると思う事は何でも対応の中に取り入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物の収納なども気を配っている。個室に入る際のノックや挨拶、言葉かけに留意している。	○	言葉かけや対応に問題があった時、スタッフ同士が互いに注意し合える環境づくりをしたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の言葉や動きから意図を読み取るよう努めている。個々の能力に応じた言葉かけや対応に努めている。(献立や入浴の希望や決定など)		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事なども強制することなく、手助けしてもらっているという形で行なう。買物や外出、入浴なども希望に沿うよう努めている。スタッフのペースにならないよう、お互いに注意し合っている。その方らしさを発揮できる場を作る努力をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	希望する方には出張散髪に来てもらったり、家族と美容室に出かけたりしている。化粧品など希望があれば一緒に買いに行ったりもする。	○	本人の望む店があるのならスタッフ同行で行けるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	ほとんどの方は事務所にお金を預け、必要時に持って買物に出る。お金の執着している方に財布の管理を任せようとするが、断られたりして、中々自己管理の形に戻せないでいる。	○	小銭を自己管理してもらい、買物の楽しさを復活する。自分で管理する緊張感や責任感を思い出す。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	毎日というわけには行かないが、管理者や事務で出来る限り対応している。	○	1対多数ではなく、1対1での外出の時間を生み出して行きたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	誕生日に担当スタッフと2人で出かける機会を作ったり、ホーム全体の行事を企画したりしている。家族とは自由に旅行など行かれている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	手紙や小包が届いた際などお礼の電話をかけたり礼状を書いたり援助をしている。家族との電話のやりとりも支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	面会時には自室で一緒に食事をされたり、希望があれば居室に泊まられたりしている。面会時間の制限なども、まったくしていない。面会者への食事提供もしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。何が拘束に入るかの定義を折々にスタッフに指導している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>最近入居の方が、まだ不穩になる時があり、時々施錠するケースがある。早く解消の方向へ持って行きたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>ホーム内の係の見直しをし、避難訓練の企画係をつくったので、毎月の指導プログラムを作成しようと考えている。(心肺蘇生法、消防訓練etc)</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>係を中心に、災害対策も含めて、プログラム化しようと考えている。地域の協力を得た形での避難訓練も企画していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	予想されるリスクと、その対策について、日頃から家族とも話し合っている。事故が起こった時は、家族に報告し、今後の対応についても話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタル測定を行ない、日頃と違う様子が見られる時は申し送っている。スタッフが対応に迷う際は管理者からその都度、細かく指示を出している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援経過に、処方内容をファイルし、スタッフ全員が熟知するよう努めている。薬の管理もスタッフ全員が関わり、誤薬のないよう見直し作業もされている。食後の服薬も個々に行ない、口腔内の確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の記録をつけ、個々のパターンを把握している。主治医と下剤の相談をし、コントロールしている。必要な方へのリハビリなど運動や水分量の確保に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは徹底されている。(歯磨き指導、義歯の洗浄、口腔のすすぎ)		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食とお茶の時間で1日の水分摂取量を1200～1500ccに設定している。必要時は水分摂取量をチェックしている。栄養バランスは協力病院の栄養士に協力されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。日頃から清潔面や、温湿度の管理に留意している。感染症が流行り始めるとスタッフに対して、細かい指導をその都度行なっている。手洗いうがいを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の買い置き日数を短くしている。冷蔵庫も月1回清掃し、清潔に努めている。作り置きしない、残りは捨てるなど留意している。乾燥消毒、ハイター消毒を中心に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には誰でもなごめるようベンチを配置したり、明るい印象を持たれるように、装飾品を置いたりしている。	○	園芸係が玄関まわりの花壇計画を企画中。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすく、広く、明るく作られている。光や温度にも気を配っている。季節折々の飾りをするようにしている。フローアはガラス面が多いので外の景観を眺め季節や天候を感じている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、こたつなど、各々が気に入った場所を使っている。ベランダのベンチや中庭のベンチなど、あちこちに休める場所を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族が好みのもを持ち込んで各自の部屋 作りをされている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>温湿度計を各々配置し、こまめに確認している。各 室の換気にも努めている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>内部のあらゆる所に手すりをつけられ、ドアも全 てが引き戸で開閉時の危険を防止している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>自室がわかる様、本人の写真を表札のように掲げ たり、個室内も使いやすい設計となっている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭や畑があり、それぞれベンチを配置して自由 に使用している。中庭では日光浴したり、レクや 行事にも使用している。玄関のベンチもレクや日 光浴でよく利用されている。自由に庭に出て、草 をむしったり、畑仕事をしたりしている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・レクリエーションを毎日定期的に行ない、生活の中メリハリをつけている。利用者の思わぬ一面を発見する場でもある。
- ・身体機能の維持を考え、リハビリも取り入れている。
- ・スタッフ、利用者共に明るくなごやかである。
- ・家族の面会が多く、協力的で話し合う場も持てるので家族、スタッフ、利用者の一体感がある。
- ・利用者が自然と参加し、能力を発揮できる場をスタッフ各々が工夫して提供している。
- ・毎月必ず行事を取り入れ、大きな行事には家族にも参加してもらう。
- ・ターミナルケアへの取り組み。医療、家族、ホームの連携と指導により、ターミナルケアを実践している。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム 羽音

(ユニット名) 羽ユニット

記入者(管理者)
氏名 草野 和子

評価完了日 2007年 6月 1日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛と奉仕の実現」という理念を掲げている。入居者を「ホームの中に閉じ込めない。来訪者をどンドン受け入れる」ことを心がけている。(学校関係、ボランティア、実習生など)	○	地域の独居老人が茶飲み友達として訪れるホームになりたい。回覧板を利用して呼びかけようと考えている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「愛と奉仕の実現」という理念を日々の中では、「つねに笑顔で接する」という事と「ダメと言わない介護」という事で実践に努めている。又、スタッフ自らが考えた目標を掲示している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を回覧板の形にして地域に配り、ホームへの理解を深めようとしている。家族に対しても同じ内容を送付している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に属し、地域の奉仕活動に積極的に参加したり、挨拶をかわしたりしている。花火大会などを企画し、近隣の方にも参加してもらっている。	○	近隣への散歩などを多くし、顔を憶えてもらったり挨拶をかわす付き合いを深めたい。老人会との付き合いを企画する。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に属し、地域の奉仕活動や行事に参加する努力をしている。(年2回の地域清掃、学校行事、お祭りなど)地域のボランティアが、踊りや演奏会を開いている。	○	夏に花火の集いを開き、回覧板を通じてお知らせし、近隣の子供達にも参加してもらった。年間を通じて、ホーム主催のイベントを考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>運営推進会議の中で模索中。</p>	○	<p>「子供110番の家」を掲げたり、災害時の緊急避難場所になっていければと思う。地域の独居老人に集う場を提供したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>施設という存在が井の中の蛙になりやすいものである事を理解し、評価を受けた内容を、良い点も悪い点もスタッフ間で共通理解できるよう話し合い、改善に努めている。</p>	○	<p>改善の指摘を受けた項目について、スタッフ1人1人がどのような改善案を考える事ができるかレベルUPの意味も含めて、各々に問いかけて行きたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>まだ開催回数が少なく、意見をサービスに反映するところまでは行っていない。運営推進会議の議事録を回覧板で地域に報告している。</p>	○	<p>地域により理解してもらう中で、もっと踏み込んだ意見交換ができるようになりたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>運営推進会議以外での行政との行き来はまだない。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>制度に関する研修会に参加し、理解に勤めているが、現在、入居者に該当者はおらず活用はしていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>制度に関連する研修会に参加してスタッフへ伝えている。ホーム内で虐待が起こらないようスタッフ同士注意し合っている。(特に言葉の部分で)</p>	○	<p>資料等をスタッフに配布し、共通認識を持たせる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	管理者が説明にあたり、時間をかけて理解と納得を図っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	午前中のレクリエーションで全員が集合する際に、会議の形で意見を出してもらう。(節水についての意見交換など) 第三者行政者の受け入れを承諾している。	○ 第三者行政者の受け入れを承諾している。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月、請求書を送付する際に、ホーム便りを利用者各々について作成して同封している。その他必要事項についても折々に手紙を作成して送付している。(面会時にも)	○ 日々の生活の中でも体調の変化や自己などについて、その都度報告している。職員の異動などについても今後は報告していこうと思う。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を設置したり、面会時に家族と話し合う努力をしている。病院受診に関して家族からの要望があり、最大限の協力をしている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	参加者が限られるミーティングの形を廃止し、細かくアンケートを配布して1人1人の意見や提案を汲み取り、統一見解を出すようにしている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	状況に合せ、超勤などで対応し、必要人員の確保に努めている。重篤な状況では管理者が常在する様になっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しいスタッフに馴染みやすい様、約1ヶ月は先輩スタッフとペアにて指導し、個々の対応を統一して入居者の安心を得ている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は先輩スタッフとペアにしての指導。プリント学習などでレベルUPを図る。管理者が現場にて細かい面の見直し指導をしている。	○	運営面、実務面、何でも問題提起があれば全員にアンケートを配り、1人1人の意見を汲み取り、1人1人が考える習慣付けをしている。今後も細部に渡って実行したい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流は多いが、スタッフ間の交流はあまり持っていない。個々に研修に参加しているのみ。	○	新人スタッフの指導が一段落したら、他施設への実習（月に3～4日、1人ずつ）を企画している。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	残業など無理強いしないよう、シフトの業務内容の見直しを常に行なっている。管理者は時間のあふり現場に居て、スタッフの精神面と、業務面のフォローをしている。	○	定期的な時間外ミーティングを廃止したので、年に何回か慰労会を開いてやりたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務1つ1つの見直しの際にも、全員にアンケートを配り個々の意見を出せる場としている。自分の意見を出せる事から向上心に結びつけようとしている。介護の学習ができるよう書籍やテープを購入し、自由貸し出しのコーナーを設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事を協働し、常に感謝の言葉をかけるようにしている。入浴や買物外出など本人の希望を確認しながら強制にならないよう本人の意思を尊重している。ホーム全体が一つの家族と考え共に支えあって生活している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の面会の折にも、挨拶のみで終わらないよう話し合う機会を多く持っている。行事への参加も呼びかけ、皆ですごせる機会や時間を持てる努力をしている。	○	現在、センター方式で生活暦のアセスメントに協力をもらっているが、より内容を深くする為、折々に親の生活暦を会話の中で聞き取っている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式の生活暦から、親子関係の把握に努め、絆が切れないよう家族と連絡を取り合ったり、外出や外泊、面会などを状況を見ながら勧めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が来訪しやすいよう、又、一緒に出かけたりしやすいよう支援している。手紙や電話のやりとりを助言したり、手伝ったりする。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しやすい利用者に対しては、スタッフが1対1で関わるなど努めている。利用者間のトラブル発生時には、各々を傷つけないようスタッフが1対1で関わるようにしている。テーブルの席順や、入浴順などにも利用者同士の相性を考慮している。具合の悪い方を心配してくれたり、手伝ったりの関係作りが出来ている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡退居後も、はがきを出したりしている。退居後も家族がボランティアとして関わったり不要物品を寄付してくれたりのおつき合いがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から垣間見える本人の気持ちを記録に残し、スタッフ間で共有できるようにしたり、1対1の関わりの中から意向を引き出すよう努めている。	○	本人の思いを逆に家族に伝え、協力を仰ぐ方向も考えなければ全てスタッフで対応はできない。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から協力を得たセンター方式の記述を基に、日常の会話の中で本人の歴史を聞きだしたりテーマにして活かすよう努めている。	○	スタッフ1人1人が関わりの中から把握できる能力を持てるよう今後も指導が必要と考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務シフトの中で、スタッフ間の申し送りや今日の様子などを細かく伝えるようにしている。スタッフは個々の生活パターンや各々の能力を大体把握しており、共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者から毎月モニタリング提出し、いろいろなアイデアを生かしている。個々の変更については、面会時や電話にて家族に報告するよう努めている。現場カンファレンスを行ない、家族の希望を聞き取りしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングにて、細部の変更はその都度行なっている。又、面会時や電話にて家族に報告している。対応の変更事項は申し送りにてスタッフに伝える。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話内容や変化をポイントにした記録を指導している。毎月のモニタリングで1ヶ月の様子を、記録を通して把握し、情報としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との協働までは行なえていない。地域のボランティアの受け入れレベルまで。	○	秋の避難訓練は地域と消防の参加を企画している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス活用はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して、地域包括支援センターと話し合える関係づくりが出来てきた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームにおける住み替えは、病院への入院が主である。入院中も度々、スタッフが顔を出し、家族とも連絡を取りあって、ダメージへの軽減に努めている。利用者の為になると思う事は何でも対応の中に取り入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物の収納なども気を配っている。個室に入る際のノックや挨拶、言葉かけに留意している。	○	言葉かけや対応に問題があった時、スタッフ同士が互いに注意し合える環境づくりをしたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の言葉や動きから意図を読み取るよう努めている。個々の能力に応じた言葉かけや対応に努めている。(献立や入浴の希望や決定など)		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事なども強制することなく、手助けしてもらっているという形で行なう。買物や外出、入浴なども希望に沿うよう努めている。スタッフのペースにならないよう、お互いに注意し合っている。その方らしさを発揮できる場を作る努力をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	希望する方には出張散髪に来てもらったり、家族と美容室に出かけたりしている。化粧品など希望があれば一緒に買いに行ったりもする。	○	本人の望む店があるのならスタッフ同行で行けるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している (認知症対応型共同生活介護)	ほとんどの方は事務所にお金を預け、必要時に持って買物に出る。お金の執着している方に財布の管理を任せようとするが、断られたりして、中々自己管理の形に戻せないでいる。	○	小銭を自己管理してもらい、買物の楽しさを復活する。自分で管理する緊張感や責任感を思い出す。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)	毎日というわけには行かないが、管理者や事務で出来る限り対応している。	○	1対多数ではなく、1対1での外出の時間を生み出して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している (認知症対応型共同生活介護)	誕生日に担当スタッフと2人で出かける機会を作ったり、ホーム全体の行事を企画したりしている。家族とは自由に旅行など行かれている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている (認知症対応型共同生活介護)	手紙や小包が届いた際などお礼の電話をかけたり礼状を書いたりの援助をしている。家族との電話のやりとりも支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している (認知症対応型共同生活介護)	面会時には自室で一緒に食事をされたり、希望があれば居室に泊まられたりしている。面会時間の制限なども、まったくしていない。面会者への食事提供もしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。何が拘束に入るかの定義を折々にスタッフに指導している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>最近入居の方が、まだ不穩になる時があり、時々施錠するケースがある。早く解消の方向へ持って行きたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>ホーム内の係の見直しをし、避難訓練の企画係をつくったので、毎月の指導プログラムを作成しようと考えている。(心肺蘇生法、消防訓練etc)</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>係を中心に、災害対策も含めて、プログラム化しようと考えている。地域の協力を得た形での避難訓練も企画していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	予想されるリスクと、その対策について、日頃から家族とも話し合っている。事故が起こった時は、家族に報告し、今後の対応についても話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタル測定を行ない、日頃と違う様子が見られる時は申し送っている。スタッフが対応に迷う際は管理者からその都度、細かく指示を出している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援経過に、処方内容をファイルし、スタッフ全員が熟知するよう努めている。薬の管理もスタッフ全員が関わり、誤薬のないよう見直し作業もされている。食後の服薬も個々に行ない、口腔内の確認をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の記録をつけ、個々のパターンを把握している。主治医と下剤の相談をし、コントロールしている。必要な方へのリハビリなど運動や水分量の確保に努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは徹底されている。(歯磨き指導、義歯の洗浄、口腔のすすぎ)		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食とお茶の時間で1日の水分摂取量を1200～1500ccに設定している。必要時は水分摂取量をチェックしている。栄養バランスは協力病院の栄養士に協力されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。日頃から清潔面や、温湿度の管理に留意している。感染症が流行り始めるとスタッフに対して、細かい指導をその都度行なっている。手洗いうがいを励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の買い置き日数を短くしている。冷蔵庫も月1回清掃し、清潔に努めている。作り置きしない、残り物は捨てるなど留意している。乾燥消毒、ハイター消毒を中心に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には誰でもなごめるようベンチを配置したり、明るい印象を持たれるように、装飾品を置いたりしている。	○	園芸係が玄関まわりの花壇計画を企画中。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすく、広く、明るく作られている。光や温度にも気を配っている。季節折々の飾りをするようにしている。フローアはガラス面が多いので外の景観を眺め季節や天候を感じている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ、こたつなど、各々が気に入った場所を使っている。ベランダのベンチや中庭のベンチなど、あちこちに休める場所を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族が好みのもを持ち込んで各自の部屋 作りをされている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>温湿度計を各々配置し、こまめに確認している。各 室の換気にも努めている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>内部のあらゆる所に手すりをつけられ、ドアも全 てが引き戸で開閉時の危険を防止している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>自室がわかる様、本人の写真を表札のように掲げ たり、個室内も使いやすい設計となっている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭や畑があり、それぞれベンチを配置して自由 に使用している。中庭では日光浴したり、レクや 行事にも使用している。玄関のベンチもレクや日 光浴でよく利用されている。自由に庭に出て、草 をむしったり、畑仕事をしたりしている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・レクリエーションを毎日定期的に行ない、生活の中メリハリをつけている。利用者の思わぬ一面を発見する場でもある。
- ・身体機能の維持を考え、リハビリも取り入れている。
- ・スタッフ、利用者共に明るくなごやかである。
- ・家族の面会が多く、協力的で話し合う場も持てるので家族、スタッフ、利用者の一体感がある。
- ・利用者が自然と参加し、能力を発揮できる場をスタッフ各々が工夫して提供している。
- ・毎月必ず行事を取り入れ、大きな行事には家族にも参加してもらう。
- ・ターミナルケアへの取り組み。医療、家族、ホームの連携と指導により、ターミナルケアを実践している。